

22 Jun. 2012



第42号

JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp

吉田会長就任挨拶



New JAAGA president Yoshida,
former Chief of Staff, JASDF

平成23年10月、津曲前会長のご逝去に伴い、会員の皆様からの御信任を賜り、第8代 JAAGA 会長に就任致しました吉田正です。会長就任は身に余る光栄であり、その使命を果たすべく前会長の意思を受け継ぎ、日米関係の更なる発展に尽力する所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

我が国の平和と安全、更には東アジアの安定のために日米同盟は不可欠であり、それが有効に機能す

るためには航空自衛隊と米空軍の信頼関係が重要であります。JAAGA は1996年創設以来、その信頼の絆を強固なものとするを設立の目的とし、様々な事業を継続してまいりました。今後ともその目的達成のため、JAAGA 一丸となって活動していきたいと考えております。

会員の皆様には、引き続き JAAGA の活動への積極的なご参加を賜り、日米同盟のより一層の発展に力を貸して頂くようお願い申し上げます。就任の挨拶と致します。

日米エアフォース友好協会会長

吉田 正

平成24年度 JAAGA 総会開催

平成24年度 JAAGA 総会が5月18日（金）、グラントヒル市ヶ谷において、講演会、感謝状贈呈式、懇親会とともに開催された。



Opening speech in the general meeting by President Yoshida

【総会】

総会は15:00から16:15の間、正会員78名（委任状134名）が参加し実施された。冒頭、昨年度ご逝去された元航空幕僚長米川忠吉氏、同津曲義光氏のご冥福を祈り、黙祷が行われた。

最初に吉田会長は挨拶の中で、故津曲前会長の後を受けて1月16日から会長を務めていることを話した後、①三沢、入間、那覇基地で実施した感謝状贈呈式の様子、特に三沢基地での贈呈式に第5空軍司令官兼日米軍司令官フィールド中将与第5空軍副司令官レイモンド少将がご夫妻で駆けつけてくれたこ

と、②米空軍協会（AFA）年次総会に参加した際、ハワイでは太平洋空軍司令官ノース大將がわざわざ制服で出迎えてくれたこと、またその後のネリス基地等の研修においても行き届いた歓待を受けたこと、③嘉手納研修では、第18航空団司令モロイ准将自ら案内、説明をしてくれたことの3つの事例を挙げ、JAAGA のこれまで16年間の活動実績の積み重ねが、米軍側に着実に伝わっているとの認識を深めたと述べ、これから1年間、さらに努力していきたいとの



78 members attended the assembly in Ichigaya on May 18.

決意を表明した。

続いて、第1号から第6号議案までの審議に移った。平成23年度事業報告、同決算報告及び監査報告、並びに平成24年度事業計画及び同予算に関する各々の議案について担当理事から説明があり、いずれも提案通り承認された。会勢の拡大施策として現役自衛官の入会検討について提案があり、検討して行くこととなった。第5号議案として、役員を選任が行われ、副会長、監事、顧問、新任理事等の新年度の役員が選出された。第6号議案として、理事、支部役員を選任を年一度の総会承認事項から四半期に一度実施する役員会で選任する事項に変更するための会則の一部改正が承認された。最後に、新旧役員の紹介と顧問委嘱が行われ、各役員には暖かい拍手が送られた。(第1号議案から第6号議案の詳細は16ページから23ページのとおり。)

【講演会】



Guest speaker: Lt. Gen. Field. The title was "The fifth generation fighter".

総会に続き、16:20から約1時間半にわたり JAAGA 会員や米軍人等150名の聴衆が集まり講演会が実施された。講師は第5空軍司令官兼在日米軍司令官フィールド中将である。演題は昨今最もホットな話題である「第5世代戦闘機」、出席者の関心も極めて高かったと思われる。

初めに吉田会長による講師の経歴紹介があり、その中で会長は司令官が来月には異動の予定であり、多忙にもかかわらず講演を引き受けてくれたことに対し感謝の言葉を述べた。

冒頭、司令官は本演題を選んだ理由を明らかにし、自分のF-16、F-22のパイロットとしての経歴や、空自OBを中心とするJAAGA会員の関心等を考慮したと述べた。本論では第5世代といわれる戦闘機について、その特質をステルス性、センサー及び統合アビオシステム、整備性、スーパークルーズ性能等の観点から多岐にわたり論ずるとともに、F-22パイロットとしての貴重な体験談も披露した。中でも印象的だったのは、司令官が米国ラングレー基地で航空団司令の時、F-22×2機(内1機を司令官が操縦)対F-15×6機による戦闘訓練を実施した際、極めて厳しい想定下での訓練であったにもかかわらず、F-22×2機でF-15を数度にわたり全機

撃墜したという話であった。講演の最後に司令官が「F-22という第5世代戦闘機の並外れた性能を考えると、単にFighterを意味する“F”をつけるだけでは呼び方として適切ではないのではないか。そして航空自衛隊が導入するF-35についても、いずれ皆さんは同じ思いを抱くかもしれない」と締めくくったことが深く記憶に刻まれた。

その後の質疑応答では、F-22に関するかなり専門的な質問が続き、聴衆の第5世代機に対する関心の高さが伺えた。最後に会長から司令官に対し謝辞とともに記念品が手渡された際には、聴衆からは惜しめない拍手が送られた。



150 JAAGA and USAF members attended the lecture.

【感謝状贈呈式】

講演会に続き、18:00からJAAGAの各種活動とその発展に貢献された日米の個人3名(阿部政男氏、ジャネット・コールマン氏、高柳實氏)と2団体(多摩ヒルズ・ゴルフ場、防衛弘済会)、及び賛助会員である7法人(株式会社IHI、伊藤忠商事株式会社、全日本空輸株式会社、双日株式会社、日本電気株式会社、富士通株式会社、三菱商事株式会社)に対して、会長から感謝状と記念品が贈呈された。

吉田会長からは、「平成8年のJAAGA設立から10年目の第1回感謝状贈呈に引き続き、昨年できなかった15年目の節目としての感謝状を贈呈させていただきます。JAAGAの設立目的である航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与する事業を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献する活動に御支援をいただいた事に謝意を表します。北東アジアの情勢が不透明かつ不確実な中、日米両国の信頼関係を深める事が増々必要であり、航空自衛隊と米空軍の信頼醸成は極めて重要です。今後ともJAAGAの組織目的を御理解いただき、引き続き御協力をお願い致します」との挨拶があった。



The winner of letter of appreciations from JAAGA. Twelve persons and groups were awarded at the assembly.

【懇親会】

懇親会は18:30から約1時間半にわたり、190名余りの関係者が集まり開催された。中谷元衆議院議員、宇都隆史参議院議員、岩崎統合幕僚長御夫妻、片岡航空幕僚長御夫妻、齊藤航空総隊司令官、平田幹部学校長、秦航空総隊副司令官、中島航空幕僚副長御夫妻、杉山航空開発実験集団司令官、航空幕僚監部、航空自衛隊各部隊の関係者、米空軍からはフィールド中將御夫妻、第5空軍副司令官レーモンド少将御夫妻、横田基地関係者、そして関係団体等からは道家日米ネービー友好協会（JANAFA）副会長、竹河内つばさ会会長等、多くの来賓の出席をいただき、盛大な懇親会となった。

冒頭、日米両国の国歌の演奏があり、吉田会長からは「昨年1年間を振り返ると2つの大きな出来事がありました。3.11の大震災におけるトモダチ作戦等の米軍支援、及び航空総隊司令部の横田移転とその直後の北朝鮮ミサイル発射事案における日米共同対処です。トモダチ作戦では米軍挙げての支援をいただき、汗と泥にまみれたその支援に日米友好の姿を見た思いが致しました。また、総隊司令部の移転につきまして、ミサイル発射事案の際に行われた日米の司令官から幕僚に至るまで相互の極めて緊密な連携については、先ほどの講演会においてフィールド中將からも御紹介がありましたが、本当に総隊司令部を横田に移転させて良かったと思います。ハワ



President Yoshida delivered the opening speech at the party. He thanked many people for their continuous supports for JAAGA.

イの第13空軍司令官と横田の航空総隊司令官の間における親近感溢れる連携についても、その緊密度の強さに感じ入りました。今後は横田における日米の綿密なFACE TO FACEの活動に、JAAGAとして側面から協力させていただこうと思います」との挨拶があった。

その後、片岡航空幕僚長に続きフィールド中將が来賓挨拶に立ち、「大震災に対する支援や、ミサイル発射事案への対処は日米両国の国と国との関係に基づく任務であると同時に、人と人の繋がりでその円滑な任務遂行の度合いが決まると思います。両手を広げて我々を迎え入れていただいたからこそ、任務を達成出来た



Lt. Gen. Field made a guest speech and appreciated JAAGA's contribution for good relationship between USAF and JASDF.

のです。JAAGAの存在の重要性は、この人と人の繋がりを更に広げ深めるところにあります。日頃からのJAAGAの活動に感謝いたします」と述べた。この他、中谷衆議院議員、宇都参議院議員からも祝辞をいただいた。所用でやや遅れた岩崎統合幕僚長のウィットに富む挨拶に会場全体の空気が和む中、竹河内つばさ会会長の音頭による乾杯で懇親の宴となった。

今回は東日本大震災におけるトモダチ作戦、及び航空総隊司令部の横田移転とその直後の北朝鮮ミサイル発射事案対処における活動等、相互に関心の深い話題で出席者の話題は尽きないようであった。来賓の方々も日米の関係者と親しく懇談し、また旧知の日米関係者の間では思い出話に花が咲くなど、終始和やかな雰囲気と活気に満ちた会話が会場を包んでいた。20:00、香川副会長の乾杯で懇親会は締めくくられ、24年度の総会行事は幕を閉じた。

(広報担当理事記)



About 190 people attended the party and celebrated JAAGA's 16th anniversary.

日米共同訓練参加隊員を激励

平成24年2月7日（火）、堀、上田、山本（康）理事が航空総隊司令官齊藤治和空将を訪れ、グアムにおける日米豪共同訓練参加に対し激励品及び会長のメッセージを手交した。

今回の訓練は、展開・撤収を含み1月26日（木）から3月5日（月）の間、第8航空団、第83航空隊及び警戒航空隊から人員約330名、航空機F-2A×



Dir. Hori, JAAGA, hands a gift to Lt. Gen. Saito, Commander of Air Defense Command, in Fuchu A/B on Feb. 7.

8機、F-15J×6機、E-2C×3機（この他、部隊の展開、撤収に伴い、C-130H及びKC-767が運航された。）が参加して実施された。2月11日（土）から2月24日（金）の間は、米国グアム島アンダーセン空軍基地及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において、防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、電子戦戦闘訓練、空対地射爆撃訓練及び空中給油訓練が実施された。なお、航空自衛隊が参加する日米豪共同訓練は、今回が初の実施であり、また渡洋に際して、KC-767から戦闘機への空中給油が初めて実施された。

齊藤司令官からは、「本共同訓練に対するJAAGAからのご支援に対して、大変感謝しております。この激励品及び会長のメッセージを部隊指揮官に渡し、JAAGAからの激励支援のことをしっかりと伝えておきます」とのお礼の言葉を頂いた。

（山本康正理事記）

日米共同救難訓練参加隊員を激励

平成23年11月28日（月）、堀、上田、山本（康）理事が航空支援集団副司令官福井正明空将補を訪れ、日米共同救難訓練（コープ・エンジェル）参加者を激励した。福井空将補からは、JAAGAの支援活動に対して深甚なる謝意が述べられた。

本共同訓練は、「日米それぞれの救難能力の向上を図るとともに、日米共同による搜索救難活動の資を得る」ことを訓練目的として、平成23年12月2日（金）～9日（金）、沖縄県浮原島訓練場及び周辺空海域等において、航空自衛隊の航空救難団及び第1

輸送航空隊（U-125A×1機、UH-60J×2機、CH-47J×1機、C-130H×1機）と米空軍の第31、第33救難中隊及び第17特殊作戦中隊（HH-60G×2機、MC-130P×1機）が参加して、米軍機の遭難を想定した日米共同搜索救助や、地震による津波及び船舶の遭難を想定した大量負傷者の日米共同救助訓練等が実施された。

なお、航空自衛隊の日米共同救難訓練は、昭和54年以降、今回で通算26回目であり、平成21年1月以来約3年ぶりの実施となる。（山本康正理事記）



Dir. Hori, JAAGA, hands a gift to Maj. Gen. Fukui, Vice Commander of Air Support Command, in Fuchu A/B on Nov. 28, 2011.



Exercise of carrying the injured in Cope Angel in Okinawa on Dec., 2011.

日米下士官相互部隊研修を支援



JASDF and USAF soldiers who took part in the exchange programs in Miho A/B on Feb.

平成24年2月17日（金）、吉田会長は三沢基地におけるJAAGA表彰行事に出席した第5空軍司令官兼在日米軍司令官フィールド中將及び第5空軍先任下士官マッキンタイア上級曹長に対し、平成23年度日米下士官相互部隊研修（空自隊員の受け入れ）への支援品を手渡した。

本研修は下士官レベルの日米相互の理解及び友好を深めるために、平成7年度から開始されており、JAAGAとしては平成17年度から日米双方の受け入れ部隊を支援している（今年度の実施状況は下表のとおり）。なお、空自への米空軍下士官の受け入れ

に対しては、昨年10月に空幕人事教育部長に支援品を手渡している。

従来、本行事は横田基地にJAAGA理事長等が訪問して行ってきたが、今年度は米軍の都合により、表彰行事の場を借りて行ったものである。マッキンタイア先任下士官は「相互研修で航空自衛隊の隊員を受け入れることは、米軍にとっても素晴らしいことであり、これからもっと続けていきたい。JAAGAからの支援に感謝したい」とのお礼を述べた。（小川理事記）



JASDF and USAF soldiers in Hamatsu A/B on Mar.



Experiencing Japanese culture: Pottery

平成23年度日米下士官相互部隊研修の実施状況

在日米空軍 → 空自			空自 → 在日米空軍		
期 間	受入部隊	参加人員	期 間	受入部隊	参加人員
23. 10. 18～27	第8航空団（築城）	7	24. 2. 6～13	第35戦闘航空団（三沢）	6
24. 2. 16～22	第3輸送航空隊（美保）	7	24. 2. 23～3. 1	第18航空団（嘉手納）	10
24. 3. 6～13	第1航空団（浜松）	6	24. 3. 1～7	第374空輸航空団（横田）	7

日米隊員表彰

平成24年2月、平成23年度JAAGA日米隊員表彰式が那覇、入間及び三沢の空自基地において実施された。本表彰行事は平成10年に開始されて以来今

年度で14回目の実施となり、表彰者数は総計96名（空自54名、米空軍42名）を数えるまでになった。

受賞者及び功績の概要

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空自	第3航空団 (三沢)	 空曹長 三浦 潤二	平成23年度三沢基地准曹会会長として日米交流諸行事を積極的に企画立案し交流促進を図るとともに、日米共同あいさつ運動を実施するなど日米間の相互理解と信頼基盤の拡充に寄与した。
	航空開発実験集団司令部 (入間)	 准空尉 藤田 信之	集団准曹士先任として相互部隊訪問、各種研修、意見交換、各種行事への招待などを通じて相互理解を促進させ、ボランティア行事に後進の参加を促した。また空自連合准曹会元会長・参与として日米下士官交流を推進させるなど日米の友好親善と信頼基盤の拡充に貢献した。
	航空総隊司令部 (府中)	 2等空曹 米戸 直子	国内外での日米共同訓練、同調整会議等で通訳・翻訳、各種儀礼等の調整に従事し日米共同訓練の円滑な実施に貢献するとともに、各種交流行事の調整・通訳等を的確に行い日米交流・親善に寄与した。
	第83航空隊 (那覇)	 空曹長 秋元 明	那覇基地での米軍下士官研修等の受入の中核要員として企画調整を行い、また嘉手納基地での意見交換会に参加して日米間の相互理解を図るなど日米交流に寄与した。
米軍	三沢情報運用センター (三沢)	 空軍曹長 ジョセフ・フィンニー	三沢国際関係委員会委員長として、各種日米交流プログラムの企画推進を図るとともに、空自准曹士隊員の第35戦闘航空団研修の受入を担当し、きめ細かな調整で交流行事を計画した。また、空自三沢准曹会主催の行事に積極的に参加し、日米友好親善の促進に寄与した。
	第374空輸航空団 (横田)	 空軍中佐 ペーター・ケリー	横田基地司令の航空総隊移転事業関連特別幕僚として、移転関連調整を担当し、事業の円滑な進捗を推進し、日米共同運用体制構築に貢献するとともに、府中基地や横田基地で実施された日米交流プログラムに参加し、日米の相互理解と友好親善に貢献した。
	第33救難中隊 (嘉手納)	 空軍兵長 ベロニカ・S・コックス	第5空軍副司令官の通訳として東日本大震災での日米間支援・救出会議に参加し、被災地の病院施設の最新情報を入手するとともに、トモダチ作戦の空輸に関与するなど震災における米軍の日本支援に貢献した。また嘉手納スペシャル・オリムピクスで地域住民の支援・通訳を行うなど日米交流の促進に努めた。

— 沖縄地区表彰式 —



JAAGA Award ceremony in Naha A/B on Feb. 3. 27 persons, including Vice President Enoki, Lt. Gen. Hanzawa, Maj. Gen. Yamada, and Brig. Gen. Molloy, attended the ceremony.

平成24年2月3日（金）、平成23年度沖縄地区JAAGA表彰行事が空自那覇基地で実施された。表彰式及び懇親祝賀会は、那覇基地隊員クラブ「ブルー・コーラル」において、空自からは南西航空混成団司令半澤隆彦空将、第83航空隊司令兼那覇基地司令山田真史空将補（当時）以下12名、米空軍からは第18航空団司令マーシュ・モロイ准将以下6名、那覇基地協力者として沖縄県防衛協会青年部会長根路銘敦氏、那覇基地協力会副会長糸嶺叡氏他2名、そしてJAAGAからは榎副会長、石津沖縄支部長以下5名が出席し、総勢27名の参加者を得て開催された。

表彰式は、安藤義隆3尉以下19名の南西航空音楽隊による日米国歌の演奏で始まり、続いて榎副会長から、JAAGA活動の意義、これまでの支援への感謝、そして表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地による積極的な協力、支援に対するお礼、及び津曲前会長の逝去に際し多くの人から寄せられた弔意への謝辞が述べられた。

今年度は、空自からは第83航空隊整備補給群検査隊の秋元明空曹長、米空軍からは第33救難中隊のベロニカ・コックス兵長が表彰された。コックス兵長

は1月末からアフガンに派遣されており、表彰式には上司である第33救難中隊司令のディブ・セントオンジュ中佐が代理で出席した。榎副会長は日米の受賞者に表彰状と記念楯を授与し、その功績を祝福した。また、残波ロイヤルホテルに勤めているJAAGA会員小川徳彌氏から、同ホテル無料宿泊券2名分が副賞としてそれぞれの受賞者に手渡された。その後、モロイ准将と山田空将補

から祝辞があり、受賞者へのお祝いと敬意の言葉とともに、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、そして航空自衛隊と米空軍との間の信頼関係強化の重要性、受賞者の今後の継続的な活動への期待、家族の協力に対する感謝等が述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会では、まず那覇基地太鼓部による迫力ある和太鼓演奏が披露された後、益々の日米友好親善を祈念しての鏡割りが行われた。続いて、沖縄県防衛協会青年部会長の根路銘敦氏の祝辞と乾杯の発声があり、日米出席者の和気藹々の祝賀会となった。受賞者挨拶では秋元曹長から日米交流が互いの仕事にも役立っていること、周囲の人々の支えによって受賞できたことへの感謝の言葉があった。また、コックス兵長からはアフガンからビデオ・レターが届き、会場で上映された。受賞が名誉であること、「トモダチ作戦」に参加して貴重な経験をしたこと、母を日本人に持つ自分が日米両国のために働くことができて良かったことなどを述べていたのが印象的であった。

（小川理事記）

—関東地区表彰式—



JAAGA Award ceremony in Iruma A/B on Feb. 10. 27 persons, including President Yoshida, Lt. Gen. Sugiyama, Maj. Gen. Kokubu, and Col. Feather, attended the ceremony.

平成24年2月10日（木）、平成23年度関東地区JAAGA表彰行事が空自入間基地において実施された。表彰式は入間イン、懇親祝賀会は第2厚生センターにおいて開催された。空自からは航空開発実験集団司令官杉山良行空将、中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令國分雅弘空将補以下15名、米空軍からは第374空輸航空団司令オットー・フェザー大佐以下4名、入間基地周辺協力者として、入間航友会会長荻野光男氏、入間基地青年同友会会長前島久尚氏、入間基地退職者雇用協議会会長豊田義継氏の計3名、そしてJAAGAから吉田会長以下5名が出席し、総勢27名の参加者を得て実施された。

表彰式は、真下宏造1尉以下8名の入間基地軽音楽部“ZOOT36J”による日米国歌の演奏から始まり、続いて吉田会長から、JAAGA活動の意義や本表彰の目的、JAAGA活動への支援に対する感謝、そして表彰行事に係る関係者、特に入間基地による積極的な協力、支援に対するお礼が述べられた。

今年度の空自側受賞者は、航空総隊司令部総務部の米戸直子2空曹（府中基地）、航空開発実験集団司令部の藤田信之准空尉（入間基地）、また米空軍側受賞者は、第374空輸航空団司令部のペータ・ケリー中佐（横田基地）である。吉田会長は、日米三

人の受賞者と奥様にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を賞賛した。オットー・フェザー大佐からはJAAGAの活動へのお礼とともに、日米の互いの価値観を理解し、共有していくうえで受賞者が大きな役割を果たしてくれたことに賛辞を贈り、今後、総隊司令部が横田で活動し始め、空自と米空軍との関係がさらに強固になるであろうとの祝辞があった。また、國分空将補からは受賞者に対する祝意とともに、「東日本大震災対処では日米が緊密に連携して任務を遂行でき、特に米軍のトモダチ作戦は国民に感動を与えた。周辺環境が不安定な中で強固な日米同盟は不可欠であり、入間基地はさらに相互信頼の強化に努めていくので一層の協力をお願いしたい」との祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会は、入間航友会会長荻野光男氏の乾杯で始まった。3人の受賞者からは、異口同音に「受賞が名誉であること、今後ともそれぞれの立場で継続的に日米の信頼強化に係る活動に携わっていきたい」との挨拶があった。最後に飯田JAAGA理事からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、表彰行事は有意義、且つ楽しい雰囲気の中で幕を閉じた。

（小川理事記）

—三沢地区表彰式—



JAAGA Award ceremony in Misawa A/B on Feb. 17. 32 persons, including President Yoshida, Lt. Gen. Field, Maj. Gen. Raymond, Maj. Gen. Kojima, Maj. Gen. Kiyofuji, and Col. Rothstein, attended the ceremony.

平成24年2月17日（金）、平成23年度三沢地区JAAGA表彰行事が空自三沢基地において実施された。本表彰行事は、沖縄地区（那覇）、関東地区（入間）に引き続くもので、23年度最後の表彰行事である。

表彰式及び懇親祝賀会は、三沢基地隊員クラブ「おがわら」において開催された。本表彰式には、特別に横田基地から第5空軍司令官兼在日米軍司令官バートン・フィールド中将ご夫妻、第5空軍副司令官ジェイ・レイモンド准将（現少将）ご夫妻、第5空軍先任下士官ダグラス・マッキンタイア上級曹長が揃って、多忙な中わざわざ時間を割いて出席して頂いた。これは以前から故津曲前会長が第5空軍司令官に強く要望していたものであり、今回その要望が叶いご夫妻揃っての出席が実現した。また、空自からは北部航空方面隊副司令官小嶋信義空将補、第3航空団司令兼三沢基地司令清藤勝則空将補以下11名、米軍三沢基地からは第35戦闘航空団司令兼三沢基地司令マイケル・ラスティーン大佐以下10名、三沢基地周辺協力者からは三沢地域自衛隊退職者雇用協議会会長の一戸栄司氏他2名のご参加を頂き、吉田会長以下4名のJAAGAメンバーを含め総勢32名の賑やかな式となった。

表彰式は冒頭、吉田会長が挨拶し、JAAGA表彰

の目的を紹介するとともに日米関係者及び基地周辺協力者によるJAAGAの活動への積極的な理解と協力に対する謝意、そして表彰行事に係る基地関係者の積極的な支援に対するお礼の言葉を述べた。

今年度の三沢基地における空自側受賞者は、第3航空団の三浦潤二空曹長、また米空軍側受賞者は、三沢情報運用センターのジョセ

フ・フィンニー空軍曹長である。吉田会長は、日米二人の受賞者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称えた。ラスティーン大佐は全て日本語で、二人の受賞者の功績を称え、「二人の活躍が他の人々の良い手本となっており、今後の一層の活躍を期待する」との祝辞を述べた。また清藤空将補からは、同じく受賞者へのお祝いの言葉とともに、「日米が共存する三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、ここで尽力した二人を表彰してもらうことは意義深いこと、また震災対処では日米間の絆を強く感じた」との祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会においては、特別ゲストと



Chief Master Sgt. Miura, winner of the prize, with Lt. Gen. Field and Maj. Gen. Raymond.

して出席した第5空軍司令官フィールド中将から、「昨年のトモダチ作戦では良好な日米関係を世界に示すことができたが、その基本は個人個人が築くものであり、受賞者達が行った三沢での交流はそのような意味でも良い成果を上げていること、そして三沢では周辺地域の方々とも良い関係を築いていると認識しており、今後ともこの関係をさらに深めていきたい」との祝辞があった。ついで三沢地域自衛隊退職者雇用協議会会長の一戸栄司氏により、昨年の日米の活動は国民に実に頼もしく映り、退職者雇用活動にも良い影響を与えていることが説明され、一層の友好親善を祈念して乾杯の音頭がとられた。そ

の後、日米の受賞者から挨拶があり、フィンニー空軍曹長は、いろいろな友好親善活動を楽しく振り返りながら、今後とも日米の絆を強めることに貢献したいと述べ、また三浦曹長からは一緒に努力したフィンニー曹長とともに受賞できたことが光栄であること、支援してくれた仲間や家族への感謝が述べられた。最後に丸山 JAAGA 三沢支部長からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、第5空軍司令官を始めとする素晴らしいゲストにも参加頂いた平成23年度三沢地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ暖かい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(小川理事記)

SPORTEX'11B 開催



Players in Sportex'11B: 94 JAAGA, JASDF, and USAF members, including President Yoshida, Lt. Gen. Nakajima, and Lt. Gen. Field, enjoyed the golf in Tama Hills GC on March 20.

平成24年3月20日(火)、SPORTEX'11Bが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて行われた。航空自衛隊から航空幕僚副長中島邦祐空将以下24名、米空軍からフィールド第5空軍司令官以下26名、JAAGAから吉田会長以下44名、日米双方合わせて94名がゴルフ競技に参加した。米側2名、日本側4名のボランティアが運営を支えた。

早朝5時のゲート・オープンから参加者が集まり始め、ドライビング・レンジでの練習、クラブハウスでの朝食の後、クラブハウス前の広場で開会式が行われた。吉田会長からは、多くの方が参加して頂いたことへの謝意と仲良く楽しく、スコアを気にせ

ずプレーして頂きたい旨の挨拶があった。フィールド司令官からは「少し寒いですが、羊のように群れて暖まっていきましょう。スタート・ホールでミスったら、天候のせいにしましょう」、中島副長からは「トモダチ作戦で深まった絆が崩れないようにプレーして頂ければと思います」と、それぞれユーモア溢れる挨拶があった。

7時、北風が吹く肌寒いコンディションの中を一斉にスタートした。昼ごろからは、ポカポカ陽気になり、絶好のコンディションとなったが、丁度良いところで競技は終了。各組毎にスコアを確認し、昼食、懇談となった。

表彰式では、優勝、準優勝、第3位、10位毎の飛び賞、ベストスコア賞、ニアピン賞等、多くの参加者が表彰された。特定順位者には、航空幕僚長、第5空軍司令官、JAAGA 会長からの特別賞が贈呈された。また、米軍ボランティア、多摩ヒルズ・スタッフには感謝の品が渡された。



Rivals at the starting hole: (from left) Lt. Gen. Nakajima, Lt. Gen. Field, President Yoshida, and Dir. Nagata.

最後に、会長からは「早朝から寒い中大勢の皆さんに集まって頂き有難うございました。事故もなく、温かい天候の中でスコアは別として、皆さんに楽しんで頂けたものと思います。スポルテックスは年2回やっていますが、航空自衛隊現役の方も入れた部門は、今後とも毎年やっていきたいと思っています。来年こそは優勝したい、ブービーをとりたいとか、目標を持って、これから1年、研鑽に励んで頂きたい」との挨拶とトーナメントを支えたスタッフ、多摩ヒルズのスタッフに感謝の言葉があった。第5空軍司令官からはスタッフに対する感謝の言葉と「今日は私も楽しめました。これからゴルフ・シーズン到来です。私も目標を持ってゴルフの技術を向上させたいと思っています」との挨拶があった。幕僚副長からは「楽しいひと時を過ごさせて頂きました。トモダチ作戦の成果かもしれませんが、現役に沢山の賞品を頂き有難うございました」との現役を代表しての挨拶があった。1時過ぎに SPORTEX'11B は終了し、参加者は参加賞を手に多摩ヒルズを後にした。(源理事記)

横田基地・友好クラブ合同新年会

平成24年1月21日(土)午後6時から、横田基地下士官クラブにおいて「Friendship Clubs New Year's Party」と称して「横田基地・友好クラブ合同新年会」が催され、JAAGA からは吉田会長、阪東、新井、源理事が参加した。また、空自からは入間、府中、立川の基地司令等が招待されていた。昨年、「福生横田交流クラブ」、「あきる野横田交流クラブ」、「瑞穂横田交流協会」、「羽村横田友好クラブ」、「武蔵村山横田友好クラブ」、「青梅横田交流クラブ」、「昭島横田友好クラブ」の7クラブに加え、会場溢れんばかりの多くの参加者となり、盛大な新年会であった。

武蔵村山市のバンド・グループによる日米両国歌



JAAGA members and their wives with Col. Feather and his wife at Yokota Friendship Clubs New Year's Party on Jan. 21.

演奏の下、儀仗隊による国旗掲揚で会は始められた。続いて、横田基地司令、7クラブ代表の武蔵村山横田友好クラブ会長、そして来賓代表の武蔵村山市長

の挨拶が行われた。基地司令フェザー大佐（当時）からは、新年の挨拶とともに、近隣の人々の支援に対する感謝の言葉があり、「地域との繋がりが重要であり、昨年の震災の時も我々は24時間体制で任務を行ったが、理解と協力を頂いたことに感謝している。日本人の立ちあがる様、粘り強さ、礼儀正しさ等に我々も勇気もらいサポートすることができた。新しい年になり、日米関係とその絆がより強固なも

のになっていくことを願っている。春には航空総隊司令部が横田基地に移転し、協力し合いながら仕事ができることを楽しみにしている」旨の挨拶があった。その後、基地司令と7クラブ会長による鏡開き、運用群司令の音頭による乾杯、バンド演奏を聴きながらの食事、歓談と続いた。そして最後に、各クラブとカウンターパート部隊との手締めが行われ、新年会の幕は閉じられた。（源理事記）

横田基地司令送別会

平成24年3月18日（日）15：00～17：15の間、横田基地オフィサーズ・クラブで、急きよ退官が決まった横田基地司令フェザー大佐の送別会が行われた。第374空輸航空団の主催で、基地周辺友好クラブ、周辺自治体及び官公庁関係者等が招かれ、航空自衛隊からは入間基地司令國分空将補、府中基地司令日吉1佐ほかクウェートでの同時期勤務者等が出席していた。JAAGAからは、阪東、新井、源理事、石川会員が参加した。

今年の横田基地・友好クラブ合同新年会でのメンバーとほぼ同じであり、顔見知りの方が多く、和やかな雰囲気での送別会となった。1時間半ほどの懇談の後、基地周辺友好クラブを始めとして各団体からの記念品の贈呈があり、JAAGAからも個人的なものであったが、阪東理事が代表して記念のパネル（武者絵）を贈った。

最後に、フェザー大佐から「お越し頂き感謝しています。突然の退官で驚かれていますのではないかと思います」との切り出しで、「31年間空軍に所属し、10年ほど前から人生設計、退官の機会を考えており、日本で勤務できた今がその時であると決心しました。着任して2年が過ぎる5月前に、日本を離れることになりました。8月までは、現副司令のナイト大佐に基地司令としてリーダーシップをとってもらうこととなります。妻ナンシーとともに日本に来させて頂いて本当に感謝しています。皆さんに親しくお付



JAAGA directors, Col. Feather, and their wives at his farewell party in Yokota Officers Club on March 18.

き合いいただいたことは我々の名誉です。友好クラブ、周辺市町、JAAGA、自衛隊、警察、消防の皆様には大変感謝しています。一人ひとりが担っている責任は重要です。日米の二国間ほど重要な役割を担っている同盟関係は他にはないのではないかと思います。我々の故郷は勤務した場所であり、日本は我々の故郷なのです。去った後も、私たちのハートの一部は日本に置いていきます。別れがなければ新たな出会いはありません。皆さんとの友情を心の中に描いてこれから生きていきます。またお会い出来ることを期待しています。必ずやお会い出来る機会があると確信しています」との別れの挨拶があった。参加者はご夫妻との別れを惜しんで基地を後にした。

（源理事記）

J A A G A 講 演 会

— 統合幕僚監部防衛計画部長 尾上空将補 —



Maj. Gen. Oue, Joint Staff Office, gave lectures at JAAGA lecture meeting in Ichigaya, Feb. 29.

平成24年2月29日（水）15時から約2時間にわたり、グランドヒル市ヶ谷において、統合幕僚監部防衛計画部長尾上空将補を講師としてJAAGA講演会が開催された。今回は「日米共同の現状と課題」と題して、主として統合運用の観点から統幕の現状及び取組みについて、その最前線にいる部長から興味深い話を聞くことができた。朝から雪が舞う生憎の天候にもかかわらず、79名の会員が参加し、最後まで熱心に講話に耳を傾けた。講師は防大26期生で、職域は航空機整備幹部。2空団司令、防衛大学校防衛学教育群長などを勤めた後、昨年8月より現職にある。また、ハーバード大学ケネディ・スクール、米国防総省国家戦略大学に留学し、安全保障や軍事戦略等について研究を行っている。

講演は、(1)統幕発足以降の日米同盟、(2)トモダチ作戦、(3)日米同盟に関する取組み、(4)統幕の検討課題という順で進められた。

まず、「統幕発足以降の日米同盟」については、平成18年3月統幕発足以降のわが国及び周辺におけるでき事や日米関係等に触れつつ統幕の6年間の足跡を振り返り、統幕の対応や日米同盟の深化について

説明した。その中で故津曲前会長からトモダチ作戦に関して在日米軍司令官へ送った礼状や日米共同訓練等に対する支援について言及し、JAAGAへの感謝の言葉を述べた。

次に、昨年3月の東北大震災において米軍が実施した「トモダチ作戦」に関して、その概要、成果、課題等について「米軍はこの作戦に約140機の航空機、15隻の艦船、16,000人の要員を動員した。日米間で日米調整所を市ヶ谷、横田、仙台に設置し、中央及び現場レベルで情報の共有、運用調整に努めた。その結果困難な任務を成功裡に遂行することができた」と述べた。一方課題としては、関係省庁を含む情報共有体制の整備、日米共同対処計画の更なる深化等を挙げた。

続いて「日米同盟に関する取組み」について、今回の震災対処も踏まえ統幕として現在どのような施策に取り組んでいるかを述べた。その中では、生じた事態に応じた日米間のカウンターパートの明確化、関係省庁を含めた情報共有システムの検討、日米を中核とする国際的な安全保障環境の改善等に触れた。また、沖縄からの一部の米海兵隊の移動については、クリントン米国务長官の論文にもあるように本格的な対中戦略の構築、予算対策との関連を指摘した。



79 JAAGA members attended the meeting.

最後に、統幕発足以来6年間の実績を踏まえ動的防衛力の整備に向けて、現在統幕ではどのようなことが検討されているかについて述べた。統幕は統合部隊の司令部的機能と大臣補佐機能を併せ持っており、その機能を充実するため24年度に運用副部長を新設する他、25年度以降の要求に向けて要員の増強、防衛計画や部隊訓練、運用情報、サイバー対処機能等の充実について検討していることなどを紹介した。

約1時間に渡る講演に続き、質疑応答が行われた。聴講者からは、米国の新国防戦略から総隊司令部の横田移転等に至るまで、日頃から考えている様々な問題について質問があり、部長との間で熱心な意見交換が行われた。最後に、吉田会長から講師に対し謝辞があり、記念品が渡された。

(古畑理事記)

那覇、嘉手納基地研修

平成24年2月16日(木)、17日(金)、JAAGA会員による那覇、嘉手納基地研修が行われた。当研修は2年ごとに行われており、今回から法人・賛助会員に加えて正会員も参加することになった。正会員で元空将阿部博男氏及び小田康夫氏を団長及び副団長とし、JAAGAから織田、金子、桃木理事の3名を含む総勢31名の研修団となった。

2日間の短い研修であったが、日米の最前線の基地を研修することができ、所期の目的を達成し、極めて意義深い研修であった。

【行動概要】

1日目(2月16日(木))

入間基地にて団結式を行い、9時入間基地発の空輸便C-1にて那覇基地へ移動した。

12:10 那覇基地に到着

第83航空隊司令兼那覇基地司令山田真史空将補(当時)の出迎えを受けた後、南西航空混成団司令半澤隆彦空将、同副司令西野哲空将補、山田空将補に対して阿部団長、小田副団長が表敬の挨拶をした。阿部団長は那覇基地の勤務経験があり、その変化ぶりに驚いていた。その後、那覇基地食堂における主要幹部との会食ではステーキをご馳走になった。

13:15 那覇基地概況説明

西野空将補から部隊の任務、南西域の情勢について、第83航空隊副司令横山1佐か

ら基地の概況と基地を取り巻く環境などについて説明があり、研修団全員熱心に耳を傾けていた。

14:30 嘉手納基地へ移動

那覇基地の広報官の案内で自衛隊施設をバスの中から見学し、最後に基地内で最も高い所にある砲台跡に案内された。なかなか根付かない本土の桜が2本残っており、印象的であった。

15:30 嘉手納基地到着

阿部研修団長、小田副団長が第18航空団司令兼嘉手納基地司令マシュー・モロイ准将を表敬した。基地司令は昨年6月に着任したが、2000年から2004年までF-15のパイロットとして勤務経験があり、2度目の嘉手納勤務だそうである。

司令部の会議室で基地司令自ら研修者に対してコマンド・ブリーフィングを実施した。嘉手納基



JAAGA members getting explanation of airplanes in Kadena A/B, Feb. 27.



JAAGA members with Brig. Gen. Molloy in front of F-15 in Kadena A/B.

地の極東における重要性と日米安保の果たす役割、エア・パワーとエア・マンパワーなどについて熱く語った。現在の沖縄における米軍の置かれた状況についてもよく理解されているように感じた。

18：00 懇親会

嘉手納基地のオフィサーズ・クラブで米空軍第18航空団の各指揮官を招待し、懇親会が行われた。JAAGA 沖縄支部長石津氏と会員の木村氏も忙しい中駆けつけてくれた。懇親会前のカクテル・タイムにはモロイ准将も参加し、会員と楽しく懇談していた。

懇親会では、米側を代表し第18運用群副司令のチャールズ・メトロリス大佐が歓迎の挨拶をされ、阿部団長からは、研修団を代表して受け入れに対するお礼と東日本大震災におけるトモダチ作戦に対する感謝の言葉があった。余興として、地元の空手道拳龍同士会で活躍する小中学生7名による空手演武が披露された。本同士会は全国大会で何度も優勝している団体である。2年前にもその演技を披露してくれており、子供たちの真剣な眼差しと気迫のこもった演技は感動的であった。

最後に研修団参加者の若手代表の日立製作所赤川翼（あかがわたすく）氏が英語でお礼の挨拶を

し、閉会となった。その夜は嘉手納基地の中にある施設に宿泊した。

2日目（2月17日（金））

08：30 嘉手納基地研修

朝食終了後、モロイ准将自ら JAAGA 研修者と同じバスに乗りこみ、施設の案内を受けた。

飛行場地区では航空機の洗機場、F-15戦闘機の滑走路端での最終点検から上空へ離陸するまでの様子をすぐ近くで見学し、駐機場においてはF-15戦闘機、HH-60救難ヘリコプター、KC-135空中給油機の地上展示をパイロットや整備員、救難員、救護員たちから説明を受けた。最後に、司令部の前でモロイ准将に対し挨拶をして、嘉手納基地の研修を終えた。

12：00 那覇基地に到着

航空自衛隊の那覇基地主要幹部と昼食をとった後、BX に立ち寄り売店の売り上げに大いに貢献した。

13：30 那覇基地発

空自のC-1に乗り那覇基地を出発した。入間到着後、解団式を行い解散となった。

（桃木理事記）

平成23年度事業報告

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、東日本大震災の影響により一部を中止したものの概ね計画どおり実施し、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与できた。

平成23年度末の会員総数は、336名（正会員235名、個人賛助会員48名、法人賛助会員44法人及び名誉会員9名）であり、年度当初会員342名から、正会員1名、個人賛助会員1名、法人賛助会員4法人がそれぞれ減となった。

第2 事業等の実施状況

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

23. 6. 27、中部航空方面隊司令官を訪問し、レッド・フラッグ・アラスカ参加部隊に対する激励の意をお伝えした。（織田理事、上田理事、山本理事）

23. 11. 28、航空支援集団副司令官（司令官代理）を訪問し、コープエンジェル参加部隊に対する激励の意をお伝えした。（堀理事、上田理事、山本理事）

24. 2. 7、航空総隊司令官を訪問し、コープ・ノース・グアム参加部隊に対する激励の意をお伝えした。（堀理事、上田理事、山本理事）

(2) 日米隊員の表彰

24. 2. 3、那覇基地隊員クラブにおいて、第83航空隊秋元明空曹長及び米空軍第33救難中隊ペロニカ・S・コックス空軍兵長を当協会設立の目的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：半澤南西航空混成団司令、山田那覇基地司令他7名、モロイ第18航空団司令他5名、根路銘沖縄県防衛協会青年部会会長他3名

JAAGA 参加者：榎副会長、小川理事、石津沖縄支部長、木村会員、小川会員

24. 2. 10、入間基地入間インにおいて、航空総隊司令部米戸直子2等空曹、航空開発実験集団司令部藤田信之准空尉及び米空軍第374輸送航空団司令部ペーター・ケリー空軍中佐を当協会設立の目的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：杉山航空開発実験集団司令官、國分入間基地司令他10名、フェザー第374輸送航空団司令他2名、萩野入間航友会副会長他2名

JAAGA 参加者：吉田会長、小川理事、飯田理事、山本理事、金子理事

24. 2. 17、三沢基地隊員クラブにおいて、第3航

空団三浦潤二空曹長及び三沢情報運用センタージョセフ・フィンニー空軍曹長を当協会設立の目的に副う功績があったとして表彰した。

来賓：小嶋北部航空方面隊副司令官、清藤三沢基地司令、フィールド第5空軍司令官、レイモンド第5空軍副司令官、ラストティーン第35戦闘航空団司令他10名、一戸三沢地域雇用協議会会長他2名

JAAGA 参加者：吉田会長、小川理事、丸山三沢支部長、山本事務局長

(3) 日米隊員の交流活動等激励

23. 10. 13、杉山航空幕僚監部人事教育部長を訪問し、空自受入れ部隊に対する激励の意をお伝えした。（香川理事長、笠原理事、山本理事）

・築城基地：23. 10. 18～10. 27 米空軍から7名参加

・美保基地：24. 2. 16～2. 22 米空軍から7名参加

・浜松基地：24. 3. 6～3. 13 米空軍から7名参加

24. 2. 17、フィールド第5空軍司令官に対し、米軍受入れ部隊に対する激励の意をお伝えした。（吉田会長、小川理事、丸山三沢支部長、山本事務局長）

・三沢基地：24. 2. 6～2. 13 空自から6名参加

・嘉手納基地：24. 2. 23～3. 1 空自から7名参加

・横田基地：24. 3. 1～3. 7 空自から10名参加

2 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

ア 米空軍軍人に対する日光等史跡研修支援

研修先が東日本大震災により被災したため中止した。

イ 米空軍士官学校学生に対する研修支援

23. 9. 5、防衛大学校からの委嘱（留学生（2名）に対するホストファミリー）を永岩副理事長、安宅理事が受けた。

23. 10. 29、留学生（2名）に対する日本文化施設等研修を永岩副理事長、安宅理事、堀理事、渡邊理事が支援した。

(2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャルオリンピックスの支援

23. 9. 10、横田基地スペシャルオリンピックスの開会式等に榎副会長、阪東理事が参加し支援した。

23. 9. 10、三沢基地スペシャルオリンピックスの開会式等に丸山三沢支部長が参加し支援した。

23. 11. 5、嘉手納スペシャルオリンピックスを支

援した。

イ 米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

23. 8. 6、第35戦闘航空団司令以下34名のねぶた祭り参加を三沢支部（丸山支部長、山本事務局長各夫妻）が支援した。

3 JAAGA と航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'11

ア SPORTEX'11-A

23. 9. 29、多摩ヒルズにおいて、米空軍軍人及び会員計78名（米軍25名【3名】、正会員47名【3名】、賛助会員6名）の参加を得て実施した。

*【 】内は、ボランティア参加で内数

イ SPORTEX'11-B

24. 3. 20、多摩ヒルズにおいて、米空軍軍人、空自隊員及び会員計100名（米空軍28名【2名】、空自24名、正会員48名【4名】）の参加を得て実施した。

*【 】内は、ボランティア参加で内数

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

24. 3. 18、横田基地司令フェザー空軍大佐送別会に新井理事、阪東理事、源理事、石川会員が参加した。

(3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

23. 9. 11～23、吉田会長以下4名がAFA総会に参加するとともに太平洋空軍司令部等及び名誉会員を表敬訪問し日米親善の交流を深めた。

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

23. 7. 3、横田基地2011年米国独立記念祭に阪東理事、桃木理事が参加した。

23. 8. 21、横田基地日米友好祭2011に阪東理事、桃木理事、高橋（健）理事、石川会員、山岡会員が参加した。

23. 9. 17、三沢基地2011エアフォースボールに丸山三沢支部長、山本事務局長が参加した。

23. 9. 17、横田基地2011エアフォースボールに阪東理事、石川会員、山岡会員が参加した。

23. 11. 26、第35戦闘航空団司令主催のオープンハウスに丸山三沢支部長、山本理事長が参加した。

23. 12. 3、第5空軍司令官主催のオープンハウスに阪東理事が参加した。

(5) 米空軍慶弔への対応

会長逝去によりクリスマスカードの発送を取り止めた。

(6) 関係団体との交流

ア 日米ネービー友好協会総会等への参加

東日本大震災の発生及び会長逝去により懇親会等への出席を取り止めた。

イ 福生横田友好協会等との交流

24. 1. 21、横田基地近隣市町友好クラブ合同新年会に吉田会長、阪東理事、新井理事、源理事が参加した。

4 広報及び広報協力

(1) 講演

24. 2. 29、グランドヒル市ヶ谷において会員78名の参加を得て統合幕僚監部防衛計画部長尾上定正空将補による講演会を実施した。（演題：日米共同の現状と課題（統合運用の視点から））

(2) 米軍基地等の研修

23. 9. 30、会員28名（団長斉藤芳信氏以下正会員6名、賛助会員22名）の横田基地研修を織田理事、阪東理事、古畑理事、金子理事が支援した。

24. 2. 16～17、会員28名（団長阿部博男氏以下正会員8名、賛助会員20名）の嘉手納基地、那覇基地研修を織田理事、桃木理事、金子理事が支援した。

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

要請がないため未実施

イ 米空軍に対する広報支援

要請がないため未実施

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

要請がないため未実施

(4) 会報「JAAGA だより」の発行・配布

23. 6. 23、だより40号（発行部数：1250部）を発行・配布した。

23. 12. 14、だより41号（発行部数：1210部）を発行・配布した。

(5) 一般広報

インターネット・ホームページを運営した。

5 総会

23. 4. 20、正会員56名（委任状154名）の出席を頂き第1号議案から第5号議案まで了承された。

6 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 会員の拡大

正会員：235名（年初会員数：236名）（新規：11名、退会：12名）

個人賛助会員：48名（年初会員数：49名）（新規：6名、退会：7名）

法人賛助会員：44法人（年初会員数：48法人）（新規：0法人、退会：4法人）

イ 支部の活性化等の推進

支部活動の活性化を推進するとともに、横田支部（仮称）の設置について所要の情報収集を継続中である。

- (2) 組織基盤の整備等
JAAGA 理事会業務実施基準等を作成した。
- (3) 会員名簿の作成・配布
23.12.14、会員名簿を作成・配布した。
- (4) 役員会及び理事会
ア 役員会
23.6.23、23.9.30、23.11.28（臨時）、23.12.14、

- 24.3.26の各日に実施した。
- イ 理事会
23.4.15、23.5.31、23.7.15、23.10.28、23.11.29、
24.1.27、24.2.24の各日に実施した。
- (5) 監査
24.4.20、23年度収支決算及び JAAGA 事務備品の監査を実施した。

第2号議案

平成23年度決算報告

(単位：円)

収 入			支 出			
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額	
前 年 度 繰 越	6,371,402	6,371,402	事 業 費	共同訓練激励費	600,000	506,886
年 会 費	3,778,000	3,837,138		表彰関係費	450,000	721,117
利 息	1,000	627		友好親善行事費	930,000	680,403
寄 付 金	—	8,000		広 報 費	1,350,000	821,149
雑 収 入	—	0		総 会 費	50,000	30,261
			小 計	3,380,000	2,759,816	
			運 営 管 理 費	入 会 活 動 費	60,000	16,260
				名 簿 関 係 費	120,000	105,420
				役 員 会 運 営 費	230,000	206,597
				支 部 運 営 費	120,000	121,260
				事 務 所 運 営 費	170,000	120,420
				事 務 通 信 費	130,000	111,743
			小 計	830,000	681,700	
			20周年行事積立金	600,000	600,000	
			予 備 費	200,000	43,486	
			支 出 計	5,010,000	4,085,002	
			翌年度繰越	5,140,402	6,132,165	
合 計	10,150,402	10,217,167	合 計	10,150,402	10,217,167	

平成24年度事業計画

(自平成24年4月1日～至平成25年3月31日)

第1 事業運営方針

各種事業を積極的かつ着実に推進するとともに、
会勢の拡大等運営管理態勢の更なる充実を図る。

第2 実施事業等の概要

1 日米隊員の激励等

- (1) 日米共同訓練参加隊員の激励等
実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問
対象訓練：レッド・フラッグ、コープ・ノース・グアム、コープ・エンジェル等
時期：日米共同訓練実施時
- (2) 日米隊員の表彰
表彰人員：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等各基地日米隊員1名基準
実施基地：三沢、入間、那覇の各基地
時期：4／四半期
- (3) 日米隊員の交流活動等激励
実施事項：日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の激励
時期：3／四～4／四半期

2 米空軍軍人の日本研修等支援

- (1) 米空軍軍人の日本文化研修支援
 - ア 米空軍軍人に対する日光等史跡研修支援
対象：米空軍軍人（夫妻等10名基準）
時期：3／四半期
 - イ 米空軍士官学校学生に対する研修支援
対象：防衛大学校へ留学中の米空軍士官学校学生（3名程度）
時期：対象学生の留学期間中（8月～12月予定）
- (2) 米空軍軍人の地域行事等支援
 - ア スペシャルオリンピックスの支援
時期及び基地：24. 6. 2、横田基地
8月下旬、三沢基地
24. 11. 17、嘉手納基地
 - イ 米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加支援
時期：24. 8. 4

3 JAAGA と航空自衛隊・米空軍との交流

- (1) SPORTEX'12
 - ア SPORTEX'12-A
場所：多摩ヒルズ
参加者：会員及び米空軍軍人 約100名
時期：3／四半期
 - イ SPORTEX'12-B
場所：多摩ヒルズ
参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人 約100名
時期：4／四半期
- (2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関

係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内
時期：都度

- (3) 米空軍協会（AFA）総会への参加
時期：平成24年9月
- (4) 在日米空軍各基地との連携の強化
対象基地：三沢、横田、嘉手納
実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等
②オープンハウス等各種基地行事への参加
- (5) 米空軍慶弔への対応
必要に応じて慶弔意を表すとともに、グリーティングカードを送付する。
- (6) 関係団体との交流
 - ア 日米ネービー友好協会総会等への参加
 - イ 福生横田友好協会等との交流

4 広報及び広報協力

- (1) 日米要人等の講演
 - ア 空幕部長等の講演
時期：4／四半期
講師：航空幕僚監部運用支援・情報部長（予定）
対象：正会員及び賛助会員
 - イ 米空軍要人等の講演
時期：平成24年5月18日（木）（JAAGA 総会時）
講師：米空軍第5空軍司令官（予定）
対象：正会員及び賛助会員並びに招待者
- (2) 米軍基地等の研修
実施事項：正及び賛助会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励
対象：正会員及び賛助会員
研修先及び時期：横田基地：2／四半期
三沢基地：4／四半期
- (3) 日米安保等に関する広報活動
 - ア 講演会等への講師派遣等
実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋
実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。
 - イ 米空軍に対する広報支援
実施事項：米空軍が準備する広報記事を「JAAGA だより」に掲載（紙面の提供）
実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。
 - ウ 大学生等の米軍基地研修支援
実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援

実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。

- (4) 会報「JAAGA だより」の発行・配布
発行回数：2回（6月、12月）
- (5) 一般広報
 - ア 関係広報誌等への投稿、情報の提供等
 - イ インターネット・ホームページの運営
 - ウ パンフレットの増刷

5 総会等

- (1) 日時：平成24年5月18日（金）
- (2) 場所：グランドヒル市ヶ谷
- (3) 実施事項：総会、講演会、感謝状贈呈式、懇親会

6 運営管理

- (1) 会勢の拡大等
 - ア 会員の拡大
目標：正会員300名、個人賛助会員50名維持、法人賛助会員50社維持
実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内
実施要領：①会勢拡大のための期別、職域等を通じた積極的な入会勧誘
②空自退官予定隊員に対する退官時期に合わせた入会案内状の送付

③部隊訪問時等における会員個々のPR

- イ 支部の活性化等の推進
引き続き、支部活動の活性化を推進するとともに、横田支部（仮称）の設置について所要の情報収集等を継続する。
- (2) 組織基盤の整備等
 - ア JAAGA 事務所の運営
 - イ 備品類の整備
- (3) 会員名簿の作成・配布
時期：12月
- (4) 役員会及び理事会
 - ア 役員会
時期：四半期毎に1回（基準）
場所：グランドヒル市ヶ谷
 - イ 理事会
時期：役員会を開催しない月毎に1回（基準、8月を除く。）
場所：JAAGA 事務所
- (5) 監査
実施事項：24年度収支決算及びJAAGA 事務備品の監査
時期：平成25年4月

第4号議案

平成24年度予算

(単位：円)

収 入		支 出		
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額	
前 年 度 繰 越	6,132,165	事 業 費	共同訓練激励費	600,000
年 会 費	3,756,000		表彰関係費	450,000
利 息	1,000		友好親善行事費	970,000
寄 付 金	—		広 報 費	1,350,000
雑 収 入	—		総 会 費	600,000
		小 計	3,970,000	
		運 営 管 理 費	入 会 活 動 費	60,000
			名 簿 関 係 費	120,000
			役 員 会 運 営 費	230,000
			支 部 運 営 費	120,000
			事 務 所 運 営 費	170,000
		事 務 通 信 費	130,000	
		小 計	830,000	
		20周年行事積立金	600,000	
		予 備 費	200,000	
		支 出 計	5,600,000	
		翌年度繰越	4,289,165	
合 計	9,889,165	合 計	9,889,165	

平成24年度事業予定表

項目	実施時期											
	1/四半期			2/四半期			3/四半期			4/四半期		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 日米隊員の激励等	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等											
	(2) 日米隊員の表彰											
	(3) 日米隊員の交流活動等激励											
2 米空軍軍人の日本研修等支援	(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援											
	(2) 米空軍軍人の地域行事等支援			○横田		○三沢		○嘉手納				
3 JAAGA と空自・米空軍との交流	(1) SPORTEX'12											
	(2) 指揮官交代行事等への出席等											
	(3) 米空軍協会総会への参加					○						
	(4) 在日米空軍各基地との連携の強化											
	(5) 米空軍慶弔への対応											
	(6) 関係団体との交流	○										
4 広報及び広報協力	(1) 日米要人等の講演		○									
	(2) 米軍基地等の研修											
	(3) 日米安保等に関する広報活動											
	(4) 会報「だより」の発行・配布											
	(5) 一般広報 (HP の運営等)											
5 総会等												
6 運営管理	(1) 会勢の拡大等・会員の拡充											
	・支部の活性化等											
	(2) 組織基盤の整備等											
	(3) 会員名簿の作成・配布											
	(4) 役員会(★)・理事会(☆)											
(5) 監査	☆	☆	★	☆	★	☆	☆	☆	★	☆	☆	★
	○前年度分											

凡例： ← → 年間を通じて実施 …… 実施時期未定

役員 の 選 任

職 名	氏 名
会 長	吉田 正
副 会 長	北村善信(新)、香川清治(新)、稲葉憲一(新)
理 事 長	永岩俊道(再)
副 理 事 長	堀 好成
企 画	織田邦男(再)、戸田友敬(再)、上田完二、森下 一(新)、長島修照(新)、渡邊至之(新)
総 務	小川剛義(再)、野田耕平、射場義彦、永田久雄(再)、飯田雅典、糸永正武(新)
渉 外	菊川忠継(再)、阪東政詮、新井洋一、高橋健二、辻 章嗣、桃木正幸(再)、宮脇俊幸
会 員	石渡幹生、松田和彦、美馬 博、金子康輔、木村 孝(新)
広 報	古畑 徹、山本康正、杉山伸樹(新)、渡部憲政(新)
財 務	藤井泰司(再)、田中和之、池田 勝、阿部英彦(新)
理 事	鬼塚恒久(再)、原田千敏
監 事	源外志明(新)、鈴木直人(新)
支 部 長	丸山 泰(三沢)
支 部 事 務 局 長	山本親男(三沢)(再)
支 部 役 員	石津 靖(沖繩)(再) 名富忠夫(沖繩)(再)

注：再は再任、新は新任

【退任】副会長：四ツ家邦紀、榎 利美

理 事：安宅耕一、岡本秀夫、山本隆之、高橋健才、双石芳則、笠原 久、奥村芳樹

日米エアフォース友好協会会則の一部改正

第6条（役員及び役員の選任）第1号を次のように改正する。

理事及び支部役員の選任の項「総会において会員の中から選任する。」を、「役員会において会員の中から選任し、総会に報告する。」に改め、表中の理事と監事の順序を入れ替える。

第6条（同）第4号：「年度途中における理事及び支部役員の選任は、会長が暫定的にこれを行うものとし、総会において承認を受けるものとする。」を削除する。

第9条の2（総会）第3(3)号を次のように改正する。

「役員の選任」を、「会長、副会長及び監事の選任」に改める。

附則：この会則は、平成24年5月18日から施行する。

改正の趣旨

- 1 JAAGAの役員のうち、理事、支部役員については、期間半ばから新規に参画することが多く、この場合、現行会則では次回総会までの間は暫定的な位置付けになっているが、実際には参画直後から積極的に実務に携わっているため、実態の活動に即した形にするための提案である。
- 2 すなわち理事、支部役員の選任を、「年一度の総会承認事項」から「四半期に一度実施する役員会で選任する事項とし、総会への報告事項」に変更するよう会則を改正するものである。

故津曲義光氏を偲ぶ会について

昨年11月27日ご逝去されました元航空幕僚長（前JAAGA会長）津曲義光氏を偲ぶ会が、次のとおり計画されておりますので、お知らせいたします。

1. 日時：平成24年7月19日（木） 18：30～20：30
2. 場所：グランドヒル市ヶ谷（3階 瑠璃の間）
3. 会費：4,000円
4. 発起人：茶木哲義、永岩俊道、山口金光、浦山長人、笠原久、山川龍夫、松下陸裕、長島修照、谷野淳一、山崎剛美、泉賢一、宮本泰夫
5. その他
 - (1) 服装：平服でお越しく下さい。
 - (2) 会費制ですので、香典及び供花等は辞退いたします。
 - (3) 参加の連絡は、各期発起人、又はJAAGA連絡先までお願いします。

JAAGA 連絡先：総務担当理事 飯田雅典：E-mail iida-mas@spp.co.jp

Tel 070-6515-5364

新入会員紹介

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
糸 永 正 武 氏	埼玉県狭山市	杉 山 伸 樹 氏	神奈川県相模原市
渡 部 憲 政 氏	東京都荒川区	山 崎 剛 美 氏	東京都江東区
水 野 誠 氏	東京都小平市	村 山 信 男 氏	埼玉県入間市
阿 部 英 彦 氏	埼玉県所沢市		

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
佐々木 吉 夫 氏	福岡県南区	徳 安 弘 明 氏	福岡県博多区
根路 銘 敦 氏	沖縄県那覇市		

会員募集

今期は関係各位のご努力で正会員7名、個人賛助会員3名、合計10名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が236名（24.6.15現在）と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○（会社）メール、電話

石渡 幹生：m-ishi@shimadzu.co.jp 03-3219-5638

松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp 03-6716-4433

金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp 03-5531-8061

美馬 博：h-mima@zp.jp.nec.com 03-3353-9720

木村 孝：t-kimura@fq.jp.nec.com 03-3456-9762

編集後記

◇42号では吉田新会長の就任挨拶をトップに、5月に開催された第17回総会の様子を始め、JAAGAの日頃の活動状況を掲載しています。全24頁の中に、過去約半年間のJAAGAの活動成果が詰まっているとすることができます。JAAGA 総会の懇親会で、5空軍司令官はこの活動の一つ一つが空自と米空軍の友好親善の礎になっていることに触れ、大変心強い思いがしました。だより編集員一同、今年後半もJAAGAの活動を地道にフォローしたいと思いますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願いたします。（編集子）